

ここに
チュウモク

ちよつと気になる地場産品

滝上産はちみつにチュウモク

夏になると滝上から紋別に向かう道路際、濁川市街に入る手前にちよつと気になる「はちみつ」と書いたのぼり旗。濁川に作業場を構え、道の駅でも地場産品として人気の高い純粋はちみつを扱う「株式会社 新屋養蜂場」。

11月3日、滝上でのちみつ採取を終え、本州に戻るため町内各所に設置してあったミツバチ巣箱約500箱の積み込み作業が行われました。今月のここにチュウモクでは古くから滝上で養蜂を営み純粋はちみつにこだわる新屋成登さんにお話を伺いました。

【滝上での養蜂のきっかけは？】

新屋▽鹿児島県曾於市（そおし）を本拠地として、養蜂を営んでおり、今から60年ほど前になります。私の父親が、滝上の人と知り合いになり養蜂の適地として選んだのが始まりです。

現在、私は2代目となるのですが、仕事に就いて23年になります。

毎年、滝上に来るたびに、春の巣箱積みおろし、秋の積み込み作業と地域の方に仕事を手伝ってもらったり、とも



株式会社 新屋養蜂場
代表取締役 新屋 成登さん

に食事をするなど交流を深めています。

「養蜂の仕事について教えてください」

養蜂の1年のサイクルは、花を求めて本拠地から春に北上を開始し、秋に戻りミツバチを越冬させます。

5月に本拠地の鹿児島からミツバチの入った木箱をトラックに積み込み、陸路、新潟に入り、一部巣箱を下ろして、6月上旬に滝上に入ります。

到着するとすぐさま町内の圃場に木箱を設置するわけですが、どこでもいいということではなく、アカシアやシナノキ、クローバーの植生がある場所を選んで設置し、ミツバチによる採蜜が始まります。

8月のお盆までに私ども3名と地元の方にお手伝いをいただき、ミツバチが集めたはちみつを採集していきます。

採取方法は、新町にある住居を兼ねた作業場に場所を移して機械（遠心分離機）を使ってろ過します。

ろ過されたはちみつは、容



ハチミツをろ過するための遠心分離機

器詰めして販売されます。

そして、冬本番となる前の11月上旬にミツバチの入った木箱を積み込み鹿児島に戻るというサイクルになります。

この方法を移動養蜂と言うのですが、私も南から北に、2日ないし3日の間で移動しています。



シーズン最後、蜂巣箱の撤収の様子



道の駅で取り扱う新屋さんのはちみつ

木箱の設置、はちみつの生産、木箱の積み込みと、その時期ごとに来町して仕事をしていますので、その間、作業風景を見かけている方もいらっしゃるかもしれませんね。

【滝上の皆さんにひと言お願いします】

毎年鹿児島から養蜂のため、滝上に来ています。

こちらで仕事をしている間、おまつりなどに顔を出したりしていますので、見かけたらお気軽に声を掛けてください。

また、こちらで生産した純度の高いはちみつは、道の駅で販売しています。

国産はちみつの市場シェアは5%程度と、現在では貴重な商品になっています。丹精込めて生産していますので、ぜひお試しください。